灼けつく大砂漠を越えて今ロレンスが進撃する！

最優秀作品賞・最優秀監督賞など
アカデミー賞7部門栄冠受賞

テクニカラー/スーパー・パナビジョン

アラビアのロレンス

アレック・ギネス★アンソニー・クィン★ジャック・ホーキンス★ホセ・ファーラー
アンソニー・クェイル★クロード・レインズ★アーサー・ケネディ
ピーター・オトゥール(ロレンス)★オマー・シャリフ(アリ)

名匠デビット・リーン監督■鬼才サム・スピーゲル製作
コロムビア映画

★4月5〈土〉日より ロードショー

池袋駅東口前

池袋東急 (971) 2727

アラビアのロレンス

LAWRENCE OF ARABIA

コロムビア映画

アラビアのロレンス という映画

1914年、第1次世界大戦勃発と同時に、戦火はまたたく間に全欧州をなめつくし、トルコの動静が大きくクローズアップされた。しかし、アラビアに勢力を拡大していたトルコ帝国はドイツ側につき、英国の敵となった。そのため英国は、トルコの残虐行為に長い間苦しんで来たアラブ民族に働きかけ、自由と新しい秩序による彼ら自身の国を創る方策を与え、けっ起させてトルコに当らせ、ひいてはドイツを牽制しようとした。

謀略、反乱、闘争に明け暮れるアラビアの天地に登場したのが"**アラビアのロレンス**"と呼ばれ、"**無冠の帝王**"と怖れられた**T・E・ロレンス**だった。優れた指導者としての、類稀れな戦術家としての、卓越した謀略家としての素質と天賦の才能を秘めていた彼の一挙一動は中東、英、米、仏、独の政府当局に脅威と動揺を与えた。

ロレンスが師ホガース博士のすすめで書いた**アラビア体験記"七つの知恵の柱"**を始め、"**砂漠の反乱**"ならびに彼に関する多くの著書は広く読まれ、その幾つかは日本でも出版されているが、スクリーンには今日までロレンスは登場しなかった。特に"七つの知恵の柱"の映画化は幾度びか企画されたにもかかわらず今まで果たされなかった。しかしプロデューサーの**サム・スピーゲル**は遂に権利を獲得、**デビッド・リーン監督**を迎えて、「戦場にかける橋」以来のコンビを再現、ここに原作にふさわしい超大作「**アラビアのロレンス**」を完成した。

ロレンスのアラビアでの活動は次の二期に分けられる。**前半**は、彼が英国の将校としてフセインの第二子フェイサルの軍事顧問となり、独自のゲリラ戦法でベドウィン・アラブを指揮して戦闘を行う時期で、要衝アカバを攻略するまで。**後半**は、ロレンス＝フェイサル軍がカイロの英軍総司令官アレンビー将軍の指揮下にあり、全軍の右翼、ヘジャズ鉄道の東面を受け持ちダマスカスへ入城するまで。映画はこの二期を通して描く。

ロレンスには、容貌、体格の酷似している**ピーター・オトゥール**が選ばれた。

彼をささえて**アレック・ギネス、アンソニー・クイン、ジャック・ホーキンス、クロード・レインズ、ホセ・ファーラー、アーサー・ケネディ、アンソニー・クェイル**、エジプトの国際的スター、**オマー・シャリフ**、英国のサー・ドナルド・ウォルフィット、シェイクスピア劇の名優ジョン・ラドック、そして中近東のスター達、ジア・モヘディン（パキスタン）、I・S・ジョハール（インド）、ガミール・ラティブ（エジプト）等完璧の布陣である。

脚本は現代英国の代表的な劇作家**ロバート・ボルト**で、映画のために初めて筆をとり、音楽作曲はヨーロッパ音楽界をリードし、「史上最大の作戦」を始めとする映画音楽を書いたフランスの**モーリス・ジャール**、演奏は**ロンドン交響楽団**。撮影監督は「ソロモンとシバの女王」等の名手**フレッド・A・ヤング**で、素晴しいカメラ・ワークを見せるなど、そしてこのほか世界第一級のスタッフが協力している。

■サントラ盤ベル・レコード■角川文庫・早川書房刊

★アラビアのロレンス という人物

★T・E・ロレンスの名は多くの人を引合いに出すまでもなく、英国近代史を飾り、またその著作によって、"チャタレー夫人の恋人"等で知られるD・H・ロレンスと共に英文学史上に輝いています。

★彼は幾多の矛盾に満ちた性格の持主で、学生の頃より考古学者を志して研究活動を続け、卒業後もこの方面で優れた研究をなしましたが、第一次大戦勃発に伴い、巨大な力に呑み込まれ、砂漠の英雄として生まれ変りました。任務を終え、アラビアに去ったロレンスは、その後、植民省中東局の政治顧問となったりしましたが、生来の冒険心と奔放な血は抑え難く、J・H・ロスの偽名で空軍に入隊したりしましたが、スピードにつかれ、1935年5月13日オートバイ事故を起し、同月19日47才の生涯を閉じたのです。

★以前からアラビア人に深い同情を寄せていたロレンスは、アラブ民族の統合と独立の夢を抱き、反乱軍の陣頭に立ちました。しかし、英国の目的はドイツ、トルコの連合粉砕にあり、しかも、反乱軍の指導者にとっては、英国が将来トルコに取って代るのではないかという懸念から、英国軍部とロレンスを巧みに操ろうとしました。ここにロレンスの悲劇があったのです。

★しかし、謀略、反乱、闘争に明け暮れるアラビアの天地に、ロレンスは超人的な活躍を見せ、アラビア人には神の如き存在でした。戦傷9回、骨接箇所33ヶ所を数えながらも、戦場では不死身でした。彼は驚くべき気力と優れた指導者としての、あるいは類稀れな戦略家としての才能を秘めていました。

★ロレンスの砂漠での活躍が終った時、彼の理想はついえ去りました。同国人からも外国人扱いされ、アラビア人からも真意を誤解されたロレンスは、淋しく英国へ去り再び戻って来ませんでした。しかし彼の死後、今日でもアラビア人の中には、アラブ民族の危機に際しては再び姿を現わし、自分達を救ってくれると信じている者が数多くいるとのことです。そして彼の砂漠での活動は、その後、日本の中国大陸における謀略手段の手本となり、世界の謀略情報活動に大きな影響を与えたといわれています。